

令和2年度 立志の会 校長あいさつ

令和3年2月9日（火）

文責 大石 友巳

保護者の皆様、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本年度はなかなかお子さん達の活躍の様子を御覧いただける機会が少ないため、本日の立志の会も貴重な機会だと思います。ぜひ皆様には、お子さんが決意した「ころざし」を御家庭でバックアップしていただくことをお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

さて、2年生のみなさん、本日は立志の会の開催おめでとうございます。この立志の会は、昔の成人式にあたるものです。数え歳で15歳現在の年齢で14歳の時に元服のお祝いをしたことに由来して中学校2年生の時に行われるようになりました。

今日の立志の会をきっかけに自分自身の今後の夢やころざしを真剣に考え、その達成に向けて決意を新たにすることを、非常に価値あることです。

これからみなさんが生きていく世の中は、数年後には65%の人が今現在無い職業に就くと言われていて、今ある仕事の約半数の仕事はAIが行い自動化されるなど社会の変化が一層激しくなると言われています。そんな変化の激しい世の中をたくましく生きていくために「ころざし」を高くもつことはとても重要です。

だからこそ、榛原中学校の学校教育目標は「ころざしを育てる」です。牧之原市の教育目標が「ころざしをもち、夢ある人づくり」とどちらにも「ころざし」を掲げ、夢に向かって努力することを目標にしているのです。

今、みなさん一人一人の力強い「ころざし」を聞き、たいへん心強く感じましたし、たくましく感じました。今後、最も大切にしてほしいことは、今日ここで決意した「ころざし」を常に意識し、達成に向けて日々の努力を積み上げてほしいということです。思いを持つだけでは前に進みません、ましてやころざしが何かを忘れてしまうようでは、後戻りしてしまいます。

みなさんが今、私の話を集中して聴いているその姿なら、自分のころざしに向けた日々の努力を必ず実践に結び付けてくれることと信じています。その地道な努力がすでに1年後に迫った自分自身の進路決定にも繋がっていくはずで、大いに頑張ってください。

幕末には時代を大きく変えた歴史上の人物が数多くいますが、そうした志士たちはみなが高いころざしを持っていたことは社会の時間にも教わったと思います。それらの人物の中でもリーダー的な存在であった吉田松陰を知っていると思いますが、その松陰が残した数々の名言をみなさんに贈りたいと思います。

志を立てて もって万事の源とす 書を読みてもって聖賢の訓(おしえ)をかんがう

何ごとにも志がなければならぬ。志を立てることが全ての源となる

多くの本を読んで、聖人や賢者の教えを参考にして自分の考えをまとめることが大切である。

そして、もう一つの名言

夢意きものに 理想意し 理想意きものに 計画意し
計画意きものに 実行意し 実行意きものに 成功意し
故に 夢意きものに 成功意し

将来の成功のためにも 夢 ころざし を大切にして、今後今まで以上に大きく成長することを期待して立志の会のあいさつとします。

志を立てて もって万事の源とす

書を読み てもって聖賢の訓(おしえ)をかんがう

夢無きものに 理想無し

理想無きものに 計画無し

計画無きものに 実行無し

実行無きものに 成功無し

故に 夢無きものに 成功無し